

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470600824	事業の開始年月日	平成17年4月1日
		指定年月日	平成17年4月1日
法人名	株式会社 日本ケアリンク		
事業所名	せらび保土ヶ谷		
所在地	(240-0045) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区川島町1219		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成22年2月12日	評価結果 市町村受理日	平成22年2月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

離職率の低さと、ご利用者の入退院がこの一年間ゼロであったこと、この2点が今期の成果である。

昨年度はアセスメントとケアプランを全職員に周知することに尽力した。当たり前のことに思えるかもしれないが、無資格者やヘルパー二級の人たちが昨今極めて多い介護業界にとって、そのものの存在すら知らない人たちが多く、一年間取り組んできた成果は見た目では分からないことだが、明らかに一昨年度とはケアに対する取り組み姿勢が変わっている。次年度は人材育成に力を入れていく取り組みを始める。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成22年3月3日	評価機関 評価決定日	平成22年4月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①このホームの経営母体は株式会社日本ケアリンクである。株式会社日本ケアリンクは埼玉、東京、千葉、神奈川にグループホーム、有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所を展開している。「せらび」とは、フランス語で'C'est la vie!(これぞ我が人生)'といい、基本理念を「せらびの実現に努力する」とし、運営理念を「自由と個性の尊重」「尊厳と敬意を込めた質の高いサービス」「家族と地域社会のふれあい」の3つに置かれ、質の高いサービスを展開している。職員の採用・教育については、職員個々に、個々の「せらび」があるはずで、それを素直に表現できる素直な人間を求めている。全社で、年1回の会議(発表の場)があり、各施設から代表が取り組み、事例を発表して研鑽を図っている。
 ②地域との関係は、自治会に加入し、盆おどりには席を設けて頂いて参加したり、お神輿の休憩所として提供する等、また、お正月では獅子舞に来て頂く等、自治会との関係は良好である。ボランティアでは、剣舞、ハーモニカ、紙芝居、色々な音楽関係の方が来てくれる。学校関係との交流は、中学校1校の体験学習を受け入れたり、近くの小学校からは学年の2クラスが日にちを分けて訪問がある。ホームとしてのお祭り、X'mas会、敬老会、夏祭り等には、ご家族やご近所の方々をお招きして交流を深めている。家族会は年2回開催し、介護方針の説明やターミナルケアの説明等を詳しくお伝えし信頼関係を深めている。また、本部に音楽療法の専門の社員が配置され、月1回、音楽療法の実地指導をしてくれている。
 ③ケアについての考え方は全社的にはICFをご指導頂いた先生の指導で、基本フォーマットを作成しておりICFがベースとなっている。アセスメント及び介護計画は全職員へ周知徹底、理解の共有を大切に考え、毎月、ご利用者にとって「気持ち良いことは何か」について職員間で話し合いを行い、介護計画に反映するよう努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	G Hせらび保土ヶ谷
ユニット名	1 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を柱とし、家族や近隣の方々との交流を図り、地域に溶け込んだ環境作りを実践している。	「せらび」とはフランス語でC' est la vie!(これぞ我が人生)であり、基本理念を「せらびの実現に努力する」とし、運営理念を「自由と個性の尊重」「尊厳と敬意を込めた質の高いサービス」「家族と地域社会のふれあい」の3つに置き質の高いサービスを展開している。家族や近隣の方々との交流を図り、地域に溶け込んだ環境作りを実践している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など外出時の機会にご挨拶を交わしたり、ホームの畑を近隣の農家の方にご指導頂いている。また、町内会主催の行事(掃除・老人会・お祭り・子供会)に参加している。	自治会に加入し、盆おどりには席を作ってもらって参加したり、お神輿の休憩所になったり、お正月の獅子舞に来てもらう等、自治会との関係も良好である。学校の関係では中学校2校から体験学習に来ている。また、近くの小学校からは、学年の2クラスが日にちを分けて訪問に来て頂き交流を図っている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域小学校・中学校の交流会や職業体験の場として提供し、近隣の保育園への見学も行い交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、町内会役員・民生委員や利用者ご家族にも参加して頂き、意見交換を行っています。これからも運営推進会議を通して、地域に根ざいた施設運営を行っている。	運営推進会議のメンバーは、町内会役員・民生委員やご家族、警察、消防、地域包括支援センターに参加して頂き、意見交換を行っている。これからも運営推進会議を通して、地域に根付いた施設運営を行っていく予定である。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横浜市GH連絡会に加入しており、交換研修を行い、情報交換の場を設けている。	横浜市GH連絡会に加入しており、交換研修を行い、情報交換の場を設け協力関係を築いている。横浜市及び保土ヶ谷区との連携は順調である。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束を理解し、身体拘束がない支援をしている。また、居室・玄関などの施錠はしていないが、庭が広いので、防犯上、周囲の門や裏口には暗証番号によりロックしている。	職員は、身体拘束の弊害を理解し、身体拘束がない支援を実践している。また、居室・玄関等の施錠はしていないが、庭が広いので、防犯上、周囲の門や裏口には暗証番号によりロックしているが閉塞感は全く感じられない。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体状況を職員全員が把握し、変化を見過ごさないように申し送りを徹底している。また、各職員が利用者に対する不適切な態度がないよう、職員会議で話し合いを持ち虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、研修会・説明会などに参加し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族に十分に説明し、納得して頂いた上で契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者並びにご家族の意見が反映されるように定期的に家族会を設けている。	ご利用者及びご家族の意見が反映されるように定期的に家族会を設けている。家族会は年2回開催し、介護方針の説明、ターミナルケアの説明など詳しくお話ししている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議並びに本社の運営会議にて、職員の意見が反映されるようにしている。	ユニット会議・全体会議並びに本社の運営会議を通し、職員の意見が反映されるように努めている。個人的な面接はユニットリーダーが聞く体制となっている。過日、本部で職員アンケートを実施している。また、定期的に職員のニーズを聞くように努めている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を行い、給与に反映させている。また、資格・能力給を設けることで職員が向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外部の研修に受講する機会を設けている。また、福祉の各資格に助成金を出して、レベルに応じた研修に参加し、介護力向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に所属し、会合や研修をしている。また、交換研修で他事業所で勉強する機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者・ご家族と共に、面接をしっかりと行い、ご本人が望まれる生活をお聞きし、入所に対する不安を取り除くように接している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の経緯を含め、利用者・ご家族の訴えをお聞きし、不安を失くすように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通し、課題を見つけ望まれた生活が出来るように対応している。在宅での生活状況を知る為、在宅ケアマネや福祉課の方に情報もらっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者とのコミュニケーションを通し、本人の主体性が発揮できるように敬意を持って接し明るく、楽しく、温かくをモットーに良い関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後も家族と連絡を取りながら、本人の状況を共有できるようにしている。また、生活の様子を電話や手紙で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来所、手紙・はがきのやり取りや本人の希望に応じて馴染みの場所や生まれ故郷への外出をしている。	ご利用者のご友人の来所や手紙・はがきのやり取りや、ご本人の希望に応じて馴染みの場所や生まれ故郷への外出を支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味やレクリエーションの時間を設け、一緒に過ごすことでコミュニケーションを図り、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状況を尋ねたり、お見舞いに出掛けたり、ご家族の相談にのっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	共同生活ができる範囲内で、ご本人の希望にそった生活を提供しています。散歩・庭の手入れ・オルガン演奏・裁縫など好きなことをされている。	共同生活ができる範囲内で、ご本人の意向に沿った生活を提供している。個々に、散歩や庭の手入れ、オルガンを演奏したり、裁縫等、一人ひとりが好きなことをして過ごせるよう支援している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや本人から日々のコミュニケーションを通し、幼少の頃や青年時代のことをお聞きし、その人の生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のしたいことを尊重した上で、調理・掃除等出来ることをお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や主治医と連携を図り、個々の疾病や身体・認知状態に合わせた介護計画を作成している。毎月のモニタリングカンファレンスを行い、本人のニーズの把握に努めている。	ご家族や主治医と連携を図り、個々の疾病や身体・認知状態に合わせた介護計画を作成している。毎月のモニタリングカンファレンスを行い、ご本人のニーズの把握に努めている。全社的にはICFを指導頂いた先生の指導に沿っているのでベースはICFに腎虚した形式となっている。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・健康チェック・管理日誌にて、職員全員が利用者の身体・生活状態を把握出来るようにし、申し送りノートを活用して伝達の徹底化を図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人への入所の紹介や、特養・特定疾患への申請手続き等支援をしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校の音楽祭に招待してもらい、楽器演奏を楽しむ機会がある。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の概ねは提携病院を主治医としているが、希望により、入居前からのかかりつけ医を受診している利用者もいる。提携病院は施設に隣接している為、早急な対応が出来る。	入居者の概ねは提携病院を主治医としているが、本人及びご家族の希望により、入居前からのかかりつけ医を受診しているご利用者もいる。提携病院は、施設に隣接している為、早急な対応が出来るのは安心である。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、往診時に同行される看護師に相談したり、体調不良時や予防接種など随時訪問して採血、点滴など必要な処置をしてもらえる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、既往歴・生活状況等の情報を提供し、退院に向けてのカンファレンスをお願いし、退院後の生活がスムーズにいくように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に利用者が重度化した場合における指針について、ご説明した上で、同意書を頂いている。また、必要が生じた場合、選択肢を示し、本人・家族にとって、より良い方向に向かう支援をしている。	入所時にご利用者が重度化した場合における指針について、本人・ご家族にご説明した上で、同意書を頂いている。また、必要が生じた場合、選択肢を示し、本人・家族にとって、より良い方向に向かうよう医師、家族と連携を取りながら支援をしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に消防署に来て頂き、防災及び応急手当の訓練・指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち会いの元、利用者と共に避難訓練を実施しています。また、地域の消防訓練にも参加し、地域の方との協力体制が出来ている。	消防署員立ち会いの元、ご利用者と共に避難訓練を実施している。また、地域の消防訓練にも参加し、地域の方との協力体制が出来ている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを汲み取り、否定せず優しく声掛けし、正しい方向へ導けるよう言葉遣いに留意している。	本人の気持ちを汲み取り、一人ひとりを尊重し、否定せずに、職員はやさしく声掛けを行い、言葉遣いに留意している。（観察で確認できている）	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれの分かる力に合わせた言葉掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にそった生活が送れるように無理強いせず、本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合った服装が出来るように衣替えを行い、整容・散髪・髭そりの支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けなどのお手伝いや、食後の下膳をお願いしている。誕生日など利用者の希望のメニューや外食などで食事の楽しみが持てるようにしている。	ご利用者には、調理や盛り付けなどのお手伝いや、食後の下膳をお願いしている。誕生日などご利用者の希望のメニューや外食等で食事の楽しみが持てるように工夫に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はチェック表で把握し、個々の適量が摂取出来るように支援している。好みの飲み物やスポーツドリンクを提供している。また、カロリー制限をしている方には、糖分・塩分を控えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、歯磨きを習慣づけている。出来ない部分は、職員が介助して清潔保持をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握した上で、トイレへの誘導を行い、習慣づけることで、利用者の尿意を自覚できるように支援している。	個々の排泄リズムを把握した上で、トイレへの誘導を行い、習慣付けることで、ご利用者の尿意を自覚できるように支援している。現在は、一人ひとりの排泄リズムの把握を実施している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足を防ぎ、毎朝、ヨーグルトを提供して、ラジオ体操や散歩など運動を取り入れ排泄を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴時間は午後に設定しているが、本人の希望に合わせて、入浴出来るように心掛けている。	基本的に入浴時間は午後に設定しているが、本人の希望に合わせて、入浴出来るように配慮している。柔軟性を持ちながら、3日に1回は入浴できるように支援している。月に1～2回は銭湯へ行き楽しめる工夫に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを踏まえ、ご本人の意思を尊重し、自由に休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療情報シートを活用して、一人ひとりの服薬状況を把握出来るようにしている。薬の説明書を見て薬の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道やお裁縫・歌唱など個々が得意な事を活かせるように余暇に取り入れ、生活が楽しく張り合いが持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	散歩やドライブ・買い物などを通して、季節感を味わって頂き、気分転換を図っている。ホームの庭や畑を歩き外気にふれるようにしている。	散歩やドライブ・買い物などを通して、季節感を味わって頂き、気分転換を図っている。ホームの庭や畑を歩き外気にふれるように支援している。ADLが落ちて外出が難しくなってきた方へのアイデアを、邸内でのレクの募集を職員にする等、支援する工夫に努めている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の機会を増やし、本人が好きな物を購入して頂くことで、買い物の楽しさや金銭感覚を養ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・はがき・電話などの家族や友人と自由に連絡を取り合っています。また、手紙やはがきの購入時やポストへの投函時に、付き添いをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く、日当たりがよく、台所・浴室は明るく清潔にしています。また、毎日の掃除にて、清潔を保ち、季節感を取り入れた飾り付けをしている。	リビングは広く、採光も良く、台所・浴室は明るく、掃除も行き届き、清潔感がある。また、季節感を取り入れた飾り付けをしている。写真や作品を掲示し、インテリアは家庭的な雰囲気居心地よく過せる工夫をしている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、個々の席を設け、フロアの一角や廊下にソファを置き、気の合った利用者同士が自由に談話する場を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、本人や家族と相談し、本人が馴染んだ家具や愛着のある物を置き、心が落ち着くような居室作り心掛けている。	入所時に、本人やご家族と相談し、本人が馴染んだ家具や愛着のある物を置き、ご利用者の心が落ち着く居心地良い居室作りになっている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースを広く取り、車椅子での移動がしやすくなっている。テーブルやソファの配置を工夫し、トイレ・浴室・フロアに手擦りをつけ、身体状況に応じた生活が出来るようになっている。		

事業所名	G Hせらび保土ヶ谷
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を柱とし、家族や近隣の方々との交流を図り、地域に溶け込んだ環境作りを実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など外出時の機会にご挨拶を交わしたり、ホームの畑を近隣の農家の方にご指導頂いている。また、町内会主催の行事（掃除・老人会・お祭り・子供会）に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域小学校・中学校の交流会や職業体験の場として提供し、近隣の保育園への見学も行い交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、町内会役員・民生委員や利用者ご家族にも参加して頂き、意見交換を行っています。これからも運営推進会議を通して、地域に根づいた施設運営を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横浜市GH連絡会に加入しており、交換研修を行い、情報交換の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束を理解し、身体拘束がない支援をしている。また、居室・玄関などの施錠はしていないが、庭が広いので、防犯上、周囲の門や裏口には暗証番号によりロックしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体状況を職員全員が把握し、変化を見過ごさないように申し送りを徹底している。また、各職員が利用者に対する不適切な態度がないよう、職員会議で話し合いを持ち虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、研修会・説明会などに参加し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族に十分に説明し、納得して頂いた上で契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者並びにご家族の意見が反映されるように定期的に家族会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議並びに本社の運営会議にて、職員の意見が反映されるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を行い、給与に反映させている。また、資格・能力給を設けることで職員が向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外部の研修に受講する機会を設けている。また、福祉の各資格に助成金を出して、レベルに応じた研修に参加し、介護力向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に所属し、会合や研修をしている。また、交換研修で他事業所で勉強する機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者・ご家族と共に、面接をしっかりと行い、ご本人が望まれる生活をお聞きし、入所に対する不安を取り除くように接している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の経緯を含め、利用者・ご家族の訴えをお聞きし、不安を失くすように努め要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通し、課題を見つけ望まれた生活ができるように対応している。在宅での生活状況を知る為、在宅ケアマネや福祉課の方に情報もらっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者とのコミュニケーションを通し、本人の主体性が発揮できるように敬意を持って接し明るく、楽しく、温かくをモットーに良い関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後も家族と連絡を取りながら、本人の状況を共有できるようにしている。また、生活の様子を電話や手紙で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人の来所、手紙・はがきのやり取りや本人の希望に応じて馴染みの場所や生まれ故郷への外出をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味やレクリエーションの時間を設け、一緒に過ごすことでコミュニケーションを図り、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状況を尋ねたり、お見舞いに出掛けたり、ご家族の相談にのっている。		
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	共同生活ができる範囲内で、ご本人の希望にそった生活を提供している。散歩・庭の手入れ・裁縫など好きなことされている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや本人から日々のコミュニケーションを通し、幼少の頃や青年時代のことをお聞きし、その人の生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のしたいことを尊重しながら、一人で行える事、職員と一緒にできる事を把握し、利用者へ目を向ける事で心身状態の変化に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段のコミュニケーションにより、本人のニーズの把握に努め、家族、医師、職員と話し合い介護計画を作成し、毎月、モニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・健康チェック・管理日誌にて、職員全員が利用者の身体・生活状態を把握出来るようにし、申し送りノートを活用して伝達の徹底化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人への入所の紹介や、特養・特定疾患への申請手続き等支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校の音楽祭に招待してもらい、楽器演奏を楽しむ機会がある。近隣保育園の運動会に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の概ねは提携病院を主治医としているが、希望により、入居前からのかかりつけ医を受診している利用者もいる。提携病院は施設に隣接している為、早急な対応が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、往診時に同行される看護師に相談したり、体調不良時や予防接種など随時訪問して採血、点滴など必要な処置をしてもらえる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、既往歴・生活状況等の情報を提供し、退院に向けてのカンファレンスをお願いし、退院後の生活がスムーズにいくように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に利用者が重度化した場合における指針について、ご説明した上で、同意書を頂いている。また、必要が生じた場合、選択肢を示し、本人・家族にとって、より良い方向に向かう支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に消防署に来て頂き、防災及び応急手当の訓練・指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち会いの元、利用者と共に避難訓練を実施している。また、地域の消防訓練にも参加し、地域の方との協力体制が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを汲み取り、否定せず優しく声掛けし、言葉遣いに留意している。ふさわしくない言葉掛けがあった時は職員同士、注意し合うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれの分かる力に合わせた言葉掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、コミュニケーションをとりながら希望を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合った服装が出来るように衣替えを行い、整容・散髪・毛染め・髭そりの支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けなどのお手伝いや、配膳・食後の下膳をお願いしている。誕生日など利用者の希望のメニューや外食などで食事の楽しみが持てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はチェック表で把握し、個々の適量が摂取出来るように支援している。好みの飲み物やスポーツドリンクを提供している。また、カロリー制限をしている方には、糖分・塩分を控えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを習慣づけている。出来ない部分は、職員が介助して清潔保持をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握した上で、トイレへの誘導を行い、習慣づけることで、利用者の尿意を自覚できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や散歩など運動を取り入れ排泄を促している。水分不足な方には好みの水分を摂取して頂いている。便秘気味の方はプルーンを摂取している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴時間は午後に設定しているが、本人の希望に合わせて、入浴出来るように心掛けている。入浴が嫌いな方は温泉に行き気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを踏まえ、ご本人の意思を尊重し、自由に休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療情報シートを活用して、一人ひとりの服薬状況を把握出来るようにし、薬の説明書を見て薬の理解に努めている。変化が見られた時は医師に連絡し、迅速な対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道やお裁縫・歌唱など個々が得意な事を活かせるように余暇に取り入れ、生活が楽しく張り合いが持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ・買い物などを通して、季節感を味わって頂き、気分転換を図っている。家族と一緒に墓参りに行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の機会を増やし、本人が好きなお品を購入して頂くことで、買い物の楽しさや金銭感覚を養ってもらっている。希望がある方は家族に説明し、本人管理ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・はがき・電話など、家族や友人と自由に連絡を取り合っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く、日当たりがよく、台所・浴室は明るく清潔にしている。また、毎日の掃除にて、清潔を保ち、季節感を取り入れた飾り付けをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、個々の席を設け、フロアの一角にソファを置き、気の合った利用者同士が自由に談話する場を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、本人や家族と相談し、本人が馴染んだ家具や愛着のある物を置き、心が落ち着くような居室作り心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースを広く取り、車椅子での移動がしやすくなっている。テーブルやソファの配置を工夫し、トイレ・浴室・フロアに手擦りをつけ、身体状況に応じた生活が出来るようになっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

GHせらび保土ヶ谷

作成日

平成22年3月12日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	33	重度化や終末期に向けた方針を明確にする。	重度化した利用者の対応が適切に行えるように、職員のスキルアップを図る。	職員の意識や技術を高めていけるように、内部・外部の研修に参加し、知識・技術を高める。重度化についての話し合いを、利用者・家族と行っていく。	1年
2	34	緊急時や事故発生時の対応を強化する。	職員は、急変・事故発生時に適切な対応が行えるよう、実践力を身につける。	職員は、内部・外部の研修、勉強会に参加し、適切な対応を身につける。	1年
					2010/2/23

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。